

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490600014		
法人名	医療法人 末広		
事業所名	グループホーム 無量寿		
所在地	大分県臼杵市大字末広915番地		
自己評価作成日	平成30年8月28日	評価結果市町村受理日	平成30年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&PrefCd=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館 1F		
訪問調査日	平成30年9月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人お一人を大切に尊重した対応を心がけ、今年度は「利用者様を大切に笑顔のある生活を目指します」を目標に、毎月季節の行事、誕生日会、レクリエーションを充実させて日々の生活の中で楽しみ、はりのある生活を送っていただけるよう取り組んでいます。またご家族との連携を密にしご安心ご満足していただけるよう努めています。母体が病院であり、急変時の対応などスムーズであり安心していただいています。食事も栄養バランスを考え、とてもおいしいと評判です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体に、病院や他介護事業所との連携も図られています。理念「地域のふれあいを大切にしながら、その人らしくゆったりと楽しく笑顔で生活が送れるようお手伝いします。」を支援の基盤に、職員の意識力の向上・周知と相互連携、組織機能の進展に励む姿が見られます。利用者と家族の思いの育み、職員との交流と連携・協力関係づくりへの導きを大切に、暮らしに活かせる支援(行事へのお誘い、生活歴の把握と困難事項の相談など)、心豊かな日常を大切に、職員力の発揮に取り組んでいます。地域に生きる体制づくり、利用者の身心の健全保持・心地よい環境づくり、安心・安全・リラックスできる生活への配慮に努めています。施設の向上に通ずる、職員の個の力量の発揮、働き易さ、実直な思いの把握に取り組む管理者の姿が伺えました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に基づき年間目標を職員全体で考えて決め、いつも確認できる目付の付くところに貼り、実践につなげるよう努力しています。	理念を日常生活の支援の指標に、職員への浸透と周知徹底を大切に捉えています。毎月のカンファレンスでの立ち返りと年度末の反省会において、現状に即したケアの実践に取り組む様子など、心の通い合う施設運営に努める姿が伺えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方(大正琴、フルート、ハーモニカ、フラダンス、日舞など)の訪問があり楽しんでいます。ご住職のご法話や地区神社の獅子舞、祇園祭りの宣伝車、保育園児との交流もあります。	法人の多機能性の活用(秋祭り・陶芸教室・音楽療法等)への積極的な参加の様子が見られます。また、ボランティア団体との関わり合い、慣れ親しんだ地域の行事に触れる楽しみ事への援助等、相互の関係性を大切に支援に活かしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターや市主催のイベントに参加し、より多くの方への情報発信に心がけています。秋祭りや文化祭などで地域の方々やご家族に参加して交流をもつていただくことで楽しんで理解していただけるよう努力しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開き、地域の方、利用者の家族、包括や行政の方々、専門職の方にも参加頂き、情報を共有し日々のケアへとつなげるよう心がけています。	施設の現況や利用者の暮らしぶり、職員状況にいたる詳細な報告、季節の注意情報にわたる発信が行われています。意見交換や協議を通じた参加者との相互連携への取り組み、さらに地域に開かれた施設の役割を担う姿勢が伺えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で市の職員の方に参加して頂き状況報告をし、情報もいただいています。月1回ケアマネ会議を行い、市の研修会の情報を共有しています。	運営推進会議での交流、電話や訪問での相談・連絡 また、研修会等を介した相互の関係づくりも図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	白川病院の研修会や毎月のカンファレンスで身体拘束や虐待について確認し、新聞の切り抜きをもとに意見交換し、拘束しないケアに取り組んでいます。	研修により職員全体の共通認識を深めると共に、利用者の現状の理解、職員間の周知と支援に取り組んでいます。職員のストレスチェック(病院管理)も行われるなど、理念「笑顔のある生活」へ立ち返る施設づくりを視野に、実践に繋げています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のカンファレンスで新聞に切り抜きやニュース等の資料をもとに話し合い、言葉使い、接遇面、ケアの仕方を振り返り虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議に年3回弁護士さんへ出席して頂き話し合いの場を設けています。また、市役所や包括の方にもご意見を伺っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際は施設内を見学して頂き説明を行い、不安やわからない事を気軽に聞いていただけるよう声かけし、十分理解していただけるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、自由にご意見をお聞きできるようにしています。また、面会時には話しかけ、気軽にご意見を言っていたいただける雰囲気作りに努めています。運営推進会議に必ず1名はご家族の方へ出席して頂いてご意見を伺っています。	「無量寿だより」の発信や、面会時を活かした相互交流が行われています。利用者・家族の思いの把握に向き合う取り組みを大切に、家族との相互連携、協力(助言)を支援に繋ぐ姿が見受けられます。外泊や外出も支援しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスや誕生会に施設長が参加し、職員の意見交換を行っています。また、管理者は職員の意見をまとめ施設長に報告、提案し、運営につながるよう努めています。	笑顔ある暮らしを糧に、個々の生活力に沿った支援と施設づくりに努めています。また、思い・スキルの向上を視野に職員と管理者とのタイアップによる個別意識調査も実施されています。働き易さへの着目、就業環境の整備も行われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は日頃の職員の勤務体制や状況などを把握され、職場環境を配慮してくれています。研修受講や休日の勉強会、カンファレンスの手当て、交通費なども配慮してくれています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や勉強会、資格取得への協力体制もできており、積極的に勧めてくれています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の研修会や地域ケア会議への参加などで意見交換をしたり、勉強会の資料などでサービスの向上に役立てるよう努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時はご家族様と一緒に施設を見学して頂き、職員より積極的に話しかけることで気軽に話せる雰囲気作りに努めています。本人の希望も聞き、不安なく生活していけるよう信頼関係を築いていきます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や不安なこと、心配なこと等を丁寧に聞き、ご希望に添えるよう良い信頼関係を作っていけるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設長、管理者が相談に応じ、主治医、ケアマネ等と連携し本人にとって一番良いサービス、ケアが出来るよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や会話、行事やレク等を一緒に楽しみ、出来ることは利用者様に手伝っていただきながら生活を送っています。共に暮らす者同士として意識し、信頼関係を築き、支えあう関係でいられるよう努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月無量寿便りとご本人の写真を送り、ご様子がわかるようにしています。面会時は一緒にお茶やお菓子で本人との時間を大切にいただいています。最近のご様子をお話したり、ケアプランの相談や不安なことなど気軽に話していただけるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親戚、友人、知人が面会に来られた時はゆっくりくつろいでいただけるよう、居室や居間でお茶をさせていただいたり、一緒に近況などお話ししたりしています。遠方の方には一緒に写真を撮ったりして楽しんでいただいています。	家族と利用者との相互のコミュニケーション(面会・行事へのお誘い)を育む暮らしにて、寄り添える思いへの提案や相互連携の支援を大切に、実践に努めています。年賀状づくりも行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の会話やお互いの関わりなどを把握し、席替えをしたり、レクや行事などスムーズに楽しく参加出来るよう職員が環境を整え、できる限り心地よい生活をしていただけるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、白川病院に入院中の方には機会があれば会いに行ったり情報をうかがっています。ご家族様にお会いした時には近況を伺ったり思い出話をしたり、必要ならば可能な限り相談に応じられるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話でご本人の希望を伺ったり感じとったりしながら、毎月担当者がモニタリングし、カンファレンスで話し合い、できるだけ本人の希望に添うよう検討しています。	利用者の思いの拝察、気づきを繋ぐケアの実践(思いが生きる暮らし)、理念「笑顔」への導きを支援の基本姿勢に、暮らしの向上にチームで取り組んでいます。より豊かな充実した日常生活の向上を目指す全職員の取り組みの姿勢が伺えます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族より聞き取りをしたり、主治医などの情報により把握しているが、日々の生活の中での会話でご本人に伺ったりご家族に伺ったりして把握し、皆で情報を共有するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子、食事、排泄の状況、表情、心理状態、毎日の健康状態なども把握し、本人のできることを、できないことを観察、把握しケアに繋げています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスで一人一人の利用者様のことを話し合い、担当者だけでなく職員全員で利用者様のケアを考え、ケアプランに繋げていくようにしています。主治医や本人、ご家族の意見も聞き、ケアプランに反映させています。	センター方式(一部)の活用と独自の書式による仕組み(日々のケア記録ファイルと一年間の綴りファイル・目標と支援経過の連合)により統一性が図られています。情報・意見交換(勉強会やカンファレンス・評価アセスメント)を計画に反映しています。	利用者の個性の尊重、目標と意図する支援経過の表記において書式の改善が見られます。チーム力の更なる向上と計画の反映を視野に、更なる工夫に期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での気づきや言動、ケアへの反応など毎日日誌や個別記録を行い、朝夕申し送り。申し送りノートにも記入し職員間で情報共有し、ケアプランの見直しに反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリが必要な方がデイケアPTよりリハビリを受けたり、他医療施設受診の付き添いや送迎を行っています。状況に応じ家族が対応できない時は買い物代行したりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	臼杵公園へお花見や臼杵石仏へ芝桜を見にドライブレクをしたり、すえひろ保育園の花祭りの来所や地域のボランティアの方々の慰問で楽しんで豊かな生活が送れるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による定期健診を行っており、本人やご家族の希望により他科受診も自由に行えるよう支援しています。	隣接する母体医療機関で対応できる内科等は、全員が母体をかかりつけ医としており、休日受診や緊急時の往診での対応は利用者や職員の安心感となっています。専門医の受診に関しては、利用者の病状に合わせた適切な受診を支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の職員が2名いて早急に異常に気づくことが出来るし、介護スタッフもすぐに報告、相談をして隣接する母体の病院に適切に受診でき、外来看護師との連携も出ています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療連携シートにより情報提供をしています。随時状況を把握し、早期退院に向けて情報交換や相談に努めています。担当師長や職員との連携も密にとっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りに関する指針に同意をいただいています。施設長が医師であるので、必ず本人・家族に状況を説明、相談し今後の処置の是非について本人・家族の意向を確認しています。職員は情報共有しチームで意向に沿うケアに取り組んでいます。	重度化や終末期支援のあり方について指針をもとに施設長(院長)、家族、職員と話し合い同意を得ています。今後予測(看取り等)されることについて家族の要望を尊重し、早い段階から医師、看護師、職員でチームを作り対応方針の共有を図っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会や勉強会、ケアカンファレンスなどで施設長、管理者から急変時の対応について指導しています。応急手当や外来受診の手順、医師への報告も理解しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルがあり、定期的に防災訓練を行っています。昼間と夜間を想定した訓練も行いました。消防署と地域の方々との協力体制も築いています。	年2回病院と合同で、昼夜想定防災訓練を行い、災害マニュアルをもとに全職員で自分の役割を認識し訓練に活かし、反省と課題を見つけ次回の訓練に繋げています。当事業所は「市福祉避難指定所」となっており、地域の方々の協力と話し合いも持たれています。	年1回は事業所単独の訓練を行うことと訓練終了後の反省会により、様々な課題発見があり、次回の訓練に活かされることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉掛けに注意し、お一人お一人の人格を尊重し、本人の誇りやプライバシーを損なわないように対応しています。母体病院の委員会に所属し、情報共有し毎月ケアカンファレンスで振り返りをしています。	病院合同の接遇研修を受けており、人格の尊重やプライバシーの確保について学んでいます。利用者に対し言葉掛けに特に注意し、敬語の使い方や尊敬の眼差しを常に持ちながら、生活歴や価値観を尊重した対応が出来るよう努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々利用者様に寄り添い、本人の思いや希望を把握し信頼関係を築き、本人が自身で決定できるように努めています。また、ご家族に伺って情報を得ることもあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人のペースに合わせ、押し付けにならないようできる限り本人の思いに添うケアに努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の好みや髪型、整髪、髭剃り、化粧品やクリームをつけるなどその方らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の食事形態を考え、見た目も楽しめるような食事作りを考えています。嗜好調査をしたり、誕生月に好きなメニューを取り入れています。テーブル拭き、お盆拭き、下膳のお手伝いもして頂いています。	調理専門の職員が利用者の嗜好や食事形態を考慮し、季節感のある献立を作成しています。調理の音や匂いに家庭的な雰囲気を感じます。行事食(1日の赤飯、クリスマス、敬老の日等)は利用者の楽しみの一つです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態や口腔内の状況により各々食事形態を決め、食前は口腔体操をして誤嚥防止に努めています。栄養バランスのとれた食事を工夫し、水分補給に努めています。食事量の少ない時は補食を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアの声かけ、セッティング、介助を行っています。毎月のモニタリングで情報を共有し、各人に応じたケアを行い、清潔を保持しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンや習慣を把握し、ご本人に合わせたトイレ介助、おむつ交換などを行っています。出来るだけ自立へ向けた取り組みを支援しています。	排泄チェック表にてパターンや習慣を把握し、自尊心に配慮した声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄支援を基本としています。居室でポータブルトイレを使用する方もおり、使用直後の清掃や清潔に注意しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便状態を把握し、個人に応じた排便コントロールを行っています。食事、水分、運動に配慮し、野菜やヨーグルト、ヤクルト、バナナ、芋類もとるようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気泡浴や介助浴で各人に添った支援をしています。入浴時は会話しながらのんびりと楽しく入浴して頂いています。体調不良時は清拭や入浴日の変更も柔軟に行っています。	病院の機械浴を併用して、週2~3回の入浴支援を行っています。入浴拒否の方には、性格や好みを考慮しタイミングを合わせ時間や日を替えることもあります。脱衣場や入浴中のたわいのない会話も、1対1の貴重な時間と意識しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や本人の希望、体調を考え、会話や水分補給などで気持ちが落ち着けるよう支援し、声かけ、介助しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者(看護師)がスタッフに説明し、薬情報もファイルしています。与薬チェックシートを使い、個別に服薬介助しています。その後の状態観察も行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボランティアの慰問、音楽療法、脳トレや塗り絵、カラオケ、習字、陶芸、風船バレーなどのレクや、本人が楽しみで洗濯物を干したり畳んだり、お盆拭きをしてくれています。ドライブレクや散歩もしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブレク(お花見、鯉のぼり見学、芝桜見学など)やご家族様との外出、外泊もあります。近所に散歩でお花を見たり、玄関先の椅子に座ってプランターのお花を見たりしています。時折、買い物と一緒にいくこともあります。	高齢化、身体状況により全員での外出は困難になっていますが、利用者の希望で数人単位のドライブ等個別支援に努めています。日常的な外出支援では、近隣の散歩、病院の中庭見学や玄関前に長椅子を並べ「野立て」や四季折々のプランターの花々を眺め気分転換を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族と相談し、希望する方は少額持っている方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話で自由に電話をする方もいます。公衆電話を使用する方もいますが、できない方は職員が手伝っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温かみのある木造で、天井が高く開放感のあるとても居心地の良い居間があり、台所と対面しているのが様子がわかります。冬は暖炉があり喜ばれています。季節に応じた飾り付けを工夫しています。	全体が木造でゆったりと木の芳香も漂う気持ちの良い事業所です。居間には転倒防止のカーペットが敷かれ安全対策も取られています。壁面や空間も利用者や職員の作品、行事一つ一つの写真が飾られ発表の場となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席の他に廊下や居間に長椅子を設置しており、他の利用者様と話ができたり思い思いのスペースで自由に過ごしています。和室の畳の間も自由に使っていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真、家具(テーブルや椅子)、テレビ、ラジオ、布団、毛布などご本人の使い慣れた好きな物を使用されています。思い出の品や陶芸作品、家族の写真が多く、明るい場所になっています。	居室に部分的に畳を使い「和」の雰囲気もあり、家族の協力で自分の思い思いに部屋作りをしています。自由な時間を部屋で過ごされる方も多く、個人の空間を大切に支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や居間には手すりがあり、パリアフリーで車椅子も自由に行き来できます。トイレには目印を付け、居室ドアには自分の居場所とわかるように飾りを付けています。ベッドの位置や高さもご本人が使いやすいように調整しています。		